



NEWS

THE TETSUJIN NEWS

株式会社東部がお届けするインフォメーション・レター

発行所 株式会社東部鉄人ニュース事務局
 神奈川県相模原市緑区下九沢 1509-4
 TEL.042-764-4128
 FAX.042-762-9593
 編集 鈴木明子
<http://www.tobu21.co.jp>

Vol.85
 2017
 9月号

つねに時代の先へ新技術と新発想でお応えいたします!

実戦に強い!貫入性能No.1 『e-pile next』!



杭の種類

φ406.4mm	Dw1000mm	L=15.5m ~ 13.5m	16set
φ355.6mm	Dw850mm	L=16.2m ~ 13.2m	16set
φ267.4mm	Dw850mm	L=16.2m ~ 13.2m	35set

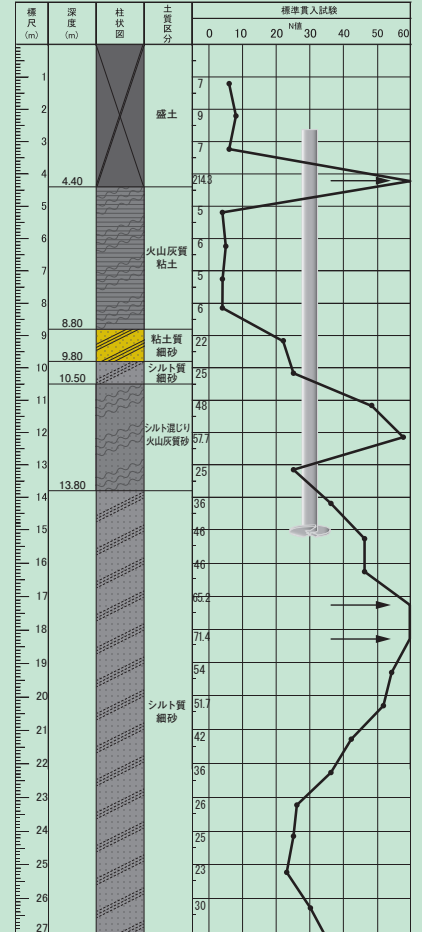
工事名	某店舗プロジェクト
施工地	東京都多摩市
用途	店舗

本物件は、某カーディーラー様店舗建替工事の杭基礎工事です。現地地盤調査結果から、GL-12m付近のN値50を超える砂層を確実に打ち抜き15m以深の安定した地盤へ貫入させる事が課題となりました。他社様競合のなか、11m付近で杭本数を増やす提案をされていましたが、e-pile next工法では抜群の貫入性能により課題を難なくクリア。これにより最小限の杭本数による提案が可能となりました。本件では自慢の貫入性能が大幅なコストダウンへ繋がる事を高く評価頂き採用となりました。元請様には施工地盤の養生、等ご協力いただき、無事に工事を完了することが出来ました。☆ご採用いただき、誠に有り難うございました。

心より
 “感謝”
 いたします。



ボーリング柱状図



e-pile next

国土交通省大臣認定工法

公共土木・公共建築での活用拡大
 国土交通省「NETIS」

登録番号: KT-160071-A

- 国土交通大臣認定
TACP-0483 砂質地盤(礫質地盤含む)
TACP-0484 粘土質地盤
- 日本建築センター 基礎評定(引抜き支持力)
BCJ評定-FD0540-01 砂質地盤
BCJ評定-FD0541-01 礫質地盤
BCJ評定-FD0542-01 粘土質地盤
- 日本環境協会
エコマーク認定 08 131022号

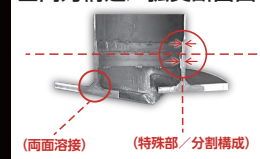
全ての鍵は杭先端にあり

全ての鍵は杭先端にあり

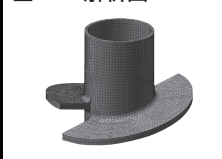
杭基礎は建物荷重を支持地盤へ伝達させる最も重要な役割であり、故に、杭先端拡翼部の貫入(掘削)性、変位・変形・破断などを発生させない高い性能が要求されます。

- 貫入性の問題を・・・『**変型穴**』により解決しました。
- 拡翼変形の問題を・・・『**特殊部**』により解決しました。
- コストの問題を・・・『**自社施工**』により解決しました。

高力構造/拡翼断面図



FEM解析図



建築・土木・鉄道、さまざまな場面で活躍しております。

検索 e-pile

検索

抗基礎の新たな可能性へ挑戦
Tobu 株式会社 東部

<http://e-pile.com>

■ 本社
 〒252-0134
 神奈川県相模原市緑区下九沢 1507-5
 TEL.042-762-4739 FAX.042-762-8971

■ 本店/ 経理室
 〒252-0134 神奈川県相模原市緑区下九沢 1509-4
 TEL.042-764-4128 FAX.042-762-9593

■ 東京営業所
 〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷 1-1-2
 朝日生命幡ヶ谷ビル 6階
 TEL.03-3376-0123 FAX.03-3376-0124

■ 相模原機材センター
 〒252-0101 神奈川県相模原市緑区町屋 1-4-37
 TEL.042-851-2681 FAX.042-851-2682



「知財のミカター巡回特許庁」今年も14都市で開催します! ~見方を変えて、知財を味方に~

各地域で知的財産制度や特許庁の支援策を身近に感じ活用していただくためのイベントを豊富にそろえています。

概要 「知財のミカター巡回特許庁」は、各都市で1ヶ月程度の期間で開催し、開催期間中は、特許庁の審査官が出張して面接審査する「出張面接審査」を中心に、知的財産の活用促進のためのセミナーの開催や知財や経営に関する臨時の相談窓口を設置するほか、地域ブランドの普及啓発のためのPR展示等各種事業を併せて実施します。中小企業や地域ブランド関係者の方をはじめ、支援機関、金融機関、行政機関、本イベントに関心のある方はどなたでも参加できます。参加は全て無料です。



主なイベント

イベント	概要・テーマ
出張面接審査	特許庁審査官が巡回特許庁の開催地域に出張して面接審査を実施。
セミナー	知的財産ビジネス: 知財が経営に与える効果や経営課題の解決に向けた知財の活用方法を解説。
	知的財産と金融: 知財を活用する地域金融機関の先進的な取組を紹介
	地域ブランド: 知財を活用した地域ブランド戦略や実践課題を解説
	面接審査: 面接審査の基本的な流れから地域ユーザー向けの最新の施策までご紹介
臨時相談窓口	知財や経営の悩みを気軽に相談できる臨時の相談窓口を設置予定。
模擬口頭審査	特許庁職員による劇仕立ての模擬口頭審査を実施。
地域ブランド等PR展示	開催地域に緑のブランド産品やパネル展示等を実施。

開催都市と時期 (他全国14都市で開催)

関西	大阪市	平成29年9月11日(月)~10月13日(金)
関東	高崎市	平成29年10月16日(月)~11月8日(水)
	前橋市	

※詳細は国土交通省HPをご覧ください。

ワンポイント 健康コラム

ダニ媒介脳炎という病気をご存知ですか?

ダニ媒介脳炎

アウトドアシーズンということで、夏休みに山や高原へ遊びに行った方も多いのではないでしょうか。これから秋登山へ行く方や、遠足などの予定がある方もいらっしゃると思いますが、自然のなかにはダニや菌など、目視だけでは確認しづらい危険な生き物もいます。

ダニ媒介脳炎とは

ダニ媒介脳炎は、ウイルスを保有するマダニに刺咬されることによって感染する疾患で、中央ヨーロッパダニ媒介脳炎とロシア春夏脳炎の二型に分けられます。病原体は、日本脳炎やデング熱と同じ種類のフラビウイルスで、マダニとげっ歯類(ハツカネズミなど)の間でウイルスが維持されています。

感染経路

ウイルスを保有するマダニに刺咬されることによって感染しますが、感染した山羊や羊等の未殺菌の乳を飲んで感染することもあるとされています。通常、人から人に直接感染することはありません。なお、一般的にマダニは、沢に沿った斜面や森林の笹原、牧草地などに生息し、家の中や人の管理の行き届いた場所にはほとんど生息していません。

症状

潜伏期間は、通常7~14日です。中央ヨーロッパ型脳炎では、発熱、筋肉痛などのインフルエンザのような症状が出現し、2~4日間続きます。そのうちの約3分の1は、髄膜脳炎に進展し、痙攣、眩暈、知覚異常などがみられます。ロシア春夏脳炎では、高度の頭痛、発熱、悪心などの後、髄膜脳炎に進展します。発症した場合の致死率は、中央ヨーロッパ型脳炎では1~2%、ロシア春夏脳炎は20%といわれており、回復しても数割の方で神経学的後遺症がみられます。

予防対策

病原体を保有するマダニに咬まれないようにすることが最も重要です。流行地域など、病原体の存在が知られている地域において、草の茂ったマダニの生息する場所に入る場合には、長袖、長ズボンを着用し、サンダルのような肌を露出するようなものは履かないことが大事です。忌避剤の併用も効果が期待されます。野外活動後は入浴し、マダニに刺されていらないか確認すること、マダニの咬着が認められた場合は、無理に自分でとろうとせず、皮膚科などでマダニの頭部が残らないように除去してもらうことも重要です。日本からダニ媒介脳炎の流行国(森林地帯に入るなど)へ旅行の予定のある方は、不活化ワクチン(日本では未承認)の接種が行われることもあります。全国の検疫所で渡航前の健康相談を受けつけておりますのでご利用ください。また、帰国時に発熱などの症状がある場合は、検疫所の検疫官にご相談ください。



日本でも北海道の一部地域においてダニ媒介脳炎ウイルスが分布していることが明らかにされています。国内だからといって安心せず、草むらに近づく際は予防対策を怠らないようにしましょう。

※詳しくは「厚生労働省」のHPをご覧ください。

経理マンが行く 水の事故に注意

9月間近になって、やっと夏らしくなってきました。1ヶ月遅きた猛暑ですが、体調管理に十分注意して下さい。さて、毎年必ずといっていい程おこる水の事故。今年も尊い命が水の事故により失われました。小さい子どもの方がニュースになりやすいので、あまり知られてはいませんが、実際には水の事故の犠牲者の9割が「高校生以上の大人」です。その中でも「海」での犠牲者が全体の5割以上、2次災害と言われる救助者の「7割」が亡くなっています。

全国の水の事故発生状況として、去年の水難は、発生件数1,448件(前年対比+52件)、水難者数1,714人(前年対比+58人)、うち死者・行方不明者782人(前年対比-13人)でした。

死者・行方不明者782人について、発生した場所別にみると、海が51.9%と最も多く、次いで河川が30.4%、また、行為別にみると、魚とり・釣りが28.3%が最も多いという統計が出ています。中学生以下の子供の死者・行方不明者は去年61人でしたが、発生した場所別にみると河川が55.7%と最も多く、次いで海が18.0%、また、行為別にみると水遊びが47.5%で、子どもはやはり水遊びによる事故が多いという事が判ります。水位は身長170cmなら70cm、100cmの子供なら40cmあれば危険な水位と言われ、簡単に言うと水位が腰まであれば溺死するという事です。実際の事故として風呂場で溺れ、パニックになって足が底をしっかりと着けず、足が滑って水を飲んで亡くなったというケースが報告されている位、水の事故は身近な問題と言えますね。

では水の事故に出くわした場合はどうしたらいいのでしょうか。水の事故の原因は、水の怖さを知らないという無知さとも言われています。

まず、いざという時は、「誰も入水せずに救助する方法」を考える事です。警察、救急車を呼びましょう。泳いで救助に向かう場合は、冷静に準備を整えてから!! 足から飛び込み、溺者から目を離さず、溺者に対して正面から向かわない事も重要です。必死で助けを求めている溺者は救助者にしがみつこうとすることがあります。溺者に抱きつかれてしまうと、救助者は思い通りの行動ができなくなってしまい、大変危険です。しがみつかれて一緒に溺れてしまいますから、足を前に出し溺者の背後にまわります。また、咄嗟の判断で救護者は流れに逆らっても、岸に対して最短コースをたどるとする傾向がありますが、このような場合には疲労度が大きくなりますので流れに逆らわないこと。救護に向かわなければならない状況に遭った場合は、ペットボトルや木片など掴んで浮いていられる道具を持参し、先に救護団体へ連絡しておいてから冷静に救護へ向かってください。

まだまだ暑い残暑が続きますので、沢山の人が水場に遊びに行かれると思いますが事故に十分注意し、今年の夏も楽しかったねと言える思い出にしてほしいと思います。

